

生命と生活の質特論

[戻る](#)

科目名	生命と生活の質特論			コード	G000100			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	必修	2	1・2	前期				
担当者名	安溪 遊地, 市村 孝雄, 志村 哲郎							
授業概要								
<p>身体的・心理的・社会的に健康で生きがいある生をめざす全人的QOLの観点から次の3主題をとりあげ、生命と生活の質をめぐる現代の状況と未来の可能性を考える</p> <p>(1) 心理的・社会的な健康と生きがいの観点から、生・老・病・死の意味、脳死・安楽死と人格概念、終末期ケアをめぐる問題、病者・障害者の当事者人権について考える</p> <p>(2) アフリカやヨーロッパの人々の暮らし・健康の概念を紹介し、それぞれの社会環境・自然環境に応じて未来の世代に持続可能なライフスタイルをつくり出す営みを学ぶ</p> <p>(3) 健康関連QOLを定量的に測る標準となりつつあるWHO-26、SF-36などのスケールについて、構造・特性・適応・限界を考え、モデル調査を体験する</p>								
到達目標				成績評価の方法と基準				
<p>身体的・心理的・社会的に健康で生きがいある生の”在りよう”について、個人と社会の視点から、また客観的量的視点から見る様々な概念と方法を理解し、批判的建設的に論じることができるようになること</p>				<p>課題ごとのレポート、課題発表のプレゼン、討論への積極的な参加、または出席などを総合して評価する</p>				
学習目標			評価項目と割合					
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) QOLと人権の関係	25	0	0	0	25	0	0	0
(2) 文化が違えばQOLのあり方もまた違うことを理解	25	10	0	0	15	0	0	0
(3) 健康関連QOLの測定ツール	25	0	0	0	25	0	0	0
(4) 課題発表とディベート	25	0	0	0	0	25	0	0
授業の項目と内容			自主学習課題					
(1) 5/12 生命・生活の質とは？(志村)								
Quality of life の概念規定をめぐって			Quality of lifeの意味を理解する					
(2) 5/12 生 をめぐる人権のゆらぎ(志村)								
胎児の人権、障害者の生きる権利と女性の産む権利について			人権の意義とその限度を理解する					
(3) 5/19 死 をめぐる人権のゆらぎ(志村)								
尊厳死や自殺援助の問題を通じて死の自己決定権を考察する			自己決定権の意味と射程を理解する					
(4) 5/19 生 老 障 病 死 とライフ・コース(志村)								
現代社会で生起する生老病障死と現代人のライフ・コースの関係を考察する			生 老 障 病 死 と現代人の生活との関係を理解する					
(5) 5/26 アフリカの森の中の暮らしと経済(安溪)								
私は大学院生のときにフィールドワークで訪ねたアフリカの森の村で1年を過ごし、人間は環境を破壊して生きるしかないというのは大変な思いにみだつたと気づいた			ケータイもコンビニも電気も水道も新聞もないアフリカの森での生活を想像して、自分が何日目ぐらいでその暮らしに慣れることができるか考えて話し合ってみよう					
(6) 5/26 どんな病気もわくわくしないと治らない(安溪)								
病気になったら、村のみんなといっしょに悪魔祓いをしなければならぬ。なぜなら、心の底からわくわくしてこなければ病気は治らないから スリランカの教え			自分の身の回りにある迷信のような行動とその意味を考えてみよう					
(7) 6/2 屋久島の暮らしと祈り(安溪)								
「十五夜のお月様、ありがとうございます。欲ではありませんが、来年も拝ませてください」 万物に神がやどるといふ、アニミズムの力で人間中心思想を越える			ディープエコロジーと「自然の権利」の思想についてしらべてみよう					

(8) 6/8 スペイン・ナバラの人々の暮らし(安溪)	
持続可能性ということを中心に据える政府と、お金を掛けずに楽しんで暮らすことを知る庶民。2005年、山口の姉妹州に5か月滞在してみえてきたこと	現代日本人の暮らしを客観的にみなおし、持続可能でないと思われる部分を見つけ、それを改善する方法を提案しなさい(レポート課題)
(9) 6/9 健康関連QOLの意味(市村)	
「健康」の意味を、身体的、精神的、社会的安寧感としてもっとも広い意味で理解する視点から、健康関連QOLの歴史、背景、概念、定義、測定について考える	健康関連QOLの限界を考える
(10) 6/9 健康関連QOLの測定(市村)	
地域保健や医療の場で使われることの多い測定ツール(尺度)のひとつを選んで、測定項目の因子構造を探る。患者立脚医療ケア・アウトカム指標の可能性を考える	各自の学校、職場で有効なQOL測定ツールは何か
(11) 6/16 QOL調査体験(市村)	
対象集団を定め、測定ツール(使用ライセンスを取得した質問紙)を使ってアンケート調査を体験学習する	調査対象者個人情報保護のために何が必要か
(12) 6/16 データ処理(市村)	
あらかじめ収集したデータを標準モデルとして、データ登録、統計処理、標準値比較の実際を体験学習する	各自のデータを統計処理する
(13) 6/23 課題発表とディベート: 生 老 障 病 死 と現代人の生活(志村)	
生 老 障 病 死 と現代人の生活との関係についてのディベート	生 老 障 病 死 について自己の見解を整理する
(14) 6/23 課題発表とディベート: 日本人の暮らしに未来はあるか(安溪)	
第5回～第8回授業の課題発表とディベート	未来があるとしたらどんな未来か、その未来と自分はどうにかかわっているか
(15) 6/23 課題発表とディベート: 健康を測る(市村)	
第9回～第12回授業の課題発表とディベート	健康を測ることのメリットと限界を考える
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
プリント、パソコンによるプレゼンテーション、DVDメディアなどを使用する	地域の人々に公開される授業です レポートの採点基準は、1)きづき = QOLを自分の問題として受け止めることができる、2)学び = 自分自身や自分の属する社会における「暮らし」や「いのち」の質を客観的にとらえることができる、3)表現 = QOLの大切さをわかりやすく伝える力がある、の3点です
受講生へのメッセージ	
「QOL論とは何か」について広い合意があるわけではありません 既成の考えを超えて、それぞれの「QOL論」を組み立てる契機にしてください	